



西日本豪雨で避難し、保健師の健康チェックを受ける被災者ら。12日午後、宍粟市一宮町（撮影・古根川淳也）

## ◆持ち出し品

減災グッズは随時見直して

人と防災未来センター（神戸市中央区）は、阪神・淡路大震災の被災者の声を盛り込んだ「減災グッズチェックリスト」を公式ホームページで公開している。普段から持ち歩きたい「携帯▽避難する際の「非常持ち出し品」△数日間自給自足するための「備蓄」」の3段階に分けて備えを呼び掛けている。

特に成長の早い乳幼児の防災グッズは、こまめな見直しが必要だ。生後9ヶ月の長男がいる記者（32）は、大阪北部地震後の6月下旬、5ヶ月ぶりに防災バッグを確認した。おむつや服が小さくなっていた上、離乳食が始まっている。

関西学院大学災害復興制度研究所の齊藤容子・指定研究員は、「女性や小さい子どもがいる家庭、高齢者などは、各自の状況に応じた必需品を加えて」とする。生理用品や紙おむつ、粉ミルクに介護用品などは、物流が滞つた状況では入手しにくい。おむつやベビーフードなども普段から日常利用分に加えて多めに保管するようにした

## ◆避難

自治体が発令する避難情報は、避難準備・高齢者等避難開始▽避難勧告▽避難指示→と、切迫度によって3段階。避難指示では直ちに避難が必要だが、危険がさし迫り外出できないときは、自宅や建物内より安全な場所に避難する。

学校や公民館が多いが、津波の浸水区域や土砂災害警戒区域だと、災害によつては利用できない場合があり確認が必要だ。連絡が付かないときは、集合わせ場所を決めておくのも有効。集合時刻を決めて定期確認すれば、待ちぼうけも防げる。

## 外出困難なら自宅で安全確保

最大震度6を記録した6月18日の大阪北部地震発生直後は、安否確認が集中し、電話がつながりにくい状態となつた。電話以外では、LINE（ライン）やツイッターなどのソーシャルネットワーク（SNS）が効果的だったとの声も聞かれた。

（太中麻美、久保田麻依子）

## ◆連絡方法

大阪北部地震発生直後は、安否確認が集中し、電話がつながりにくい状態となつた。電話以外では、LINE（ライン）やツイッターなどのソーシャルネットワーク（SNS）が効果的だったとの声も聞かれた。

NTTの「災害用伝言ダイヤル（171）」「Web171」や携帯各社の「災害用伝言板」もある。電話番号からの検索も可能。伝言を聞いたときは、ガイダンスに従つて相手の電話番号を入力して検索する。事前に決めおけば暗証番号も設定できる。

## 電話以外にSNSも効果的

# 災害時の備え再確認を

できれば普段から携帯	
□ 飲料水	□ 筆記用具
□ 携帯食	□ 現金
□ ホイッスル	□ 救急用品セット
□ 懐中電灯	□ 持病薬・常備薬
□ 携帯ラジオ	□ マスク
□ 携帯電話	□ 簡易トイレ
(□ 充電器 □ パッテリー)	□ ティッシュペーパー
□ 連絡メモ	□ 使い捨てカイロ
□ 身分証明書	□ ハンカチ
	□ 安全ピン
	□ ポリ袋
	□ 雨具
	□ ふろしき

### 持ち出し品チェックリスト

備蓄	
□ 衣類	□ ドライシャンプー
□ 毛布	□ 重曹
□ 塩・調味料	□ 工具類
□ 食器類	□ 地図
□ ラップ	(避難用・帰宅支援用)
□ アルミホイル	□ ローソク
□ 缶切り	□ 非常用給水袋・
□ タオル	□ タンク類
□ ピニールシート	□ キッチンペーパー
□ ライター	□ ホワイトボード
□ 布ガムテープ	□ ざらしの布
□ 保存食類	□ スリッパ
□ 予備電池	□ 蚊取り線香

### 個別に検討

貴重品	乳幼児
□ 予備鍵(家・車等)	□ 粉ミルク・哺乳瓶・離乳食
□ 予備メガネ・コンタクトレンズ	□ 清浄綿
□ 通帳・証書類のコピー	□ バスタオル
□ 印鑑	□ 紙おむつ
女性	□ だっこ紐
□ 生理用品(おりものシート)	□ 母子手帳
□ 防犯ブザー	障害者・外国人
□ くし・ブラン・鏡	□ 障害者手帳
□ 化粧品	□ 助けを求める手段
□ 入れ歯	□ 移動を助ける手段
□ 髪の毛をくるゴム	□ 情報を得る手段
□ 補聴器	□ コミュニケーションを助ける手段
	□ 落ち着ける・安心できるもの
	□ 要援護者と確認できる外装

◆多角的な視点から災害に備えるシリーズです。第3月曜日に掲載。8月は休み、次回は9月17日です。